

氏名	高 橋 侃
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1121 号
学 位 授 与 の 日 付	昭 和 5 5 年 6 月 3 0 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学 位 論 文 題 目	びまん性胃癌における粘液産生型癌細胞と結合織増生の動態に 関する形態学的、組織化学的研究
論 文 審 査 委 員	教授 小川 勝士    教授 寺本 滋    教授 栗井 通泰

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

びまん性胃癌にみることが多い粘液産生型癌細胞をⅠ型・Ⅱ型・Ⅲ型に分け、結合織増生との関係を人胃癌 363 例について粘液組織化学的、電顕的に検討し、次の結果を得た。粘液産生型癌細胞のⅠ型・Ⅱ型は mucous neck cell や pyloric gland cell に類似していた。粘液産生型癌細胞のⅢ型のうち、alcian blue 陽性のものは goblet cell に、PAS 陽性のものは pyloric gland cell に類似していた。粘液産生型癌細胞の分布を、組織型、間質量・肉眼的分類別にみると、分化型胃癌よりも低分化型胃癌に多く、髓様型・中間型よりも硬化型に多く、肉眼的分類 1・2 型よりも、浸潤傾向のある 3・4・5 型に多くみられた。壁深達度別では、粘膜内ではⅢ型細胞が多く、粘膜下層以下ではⅠ型・Ⅱ型細胞が多く分布していた。また癌浸潤先進部ではⅠ型・Ⅱ型細胞をみることが多かった。電顕的に、Konjetzny のいう結合織増生の強い Carcinoma fibrosum と結合織増生の少ない Skirrhous の癌間質をみるに、Ca. fibrosum では細胞内小器の発達した線維芽細胞の間に、640 Å のコラーゲン線維が豊富にあり、この癌間質にはⅡ型細胞を主体にⅠ型細胞もよくみられた。そして癌細胞の崩壊像もしばしばみられ、崩壊した癌細胞の小器官や化学物質が刺激となりコラーゲン合成細胞を賦活することも考えられた。一方 Skirrhous ではコラーゲン線維は少なく、線維芽細胞も mitochondria の膨化が目立ち、Ⅲ型細胞がよくみられた。これらのことから、結合織増生にはⅢ型細胞よりもⅡ型細胞やⅠ型細胞が多いに関係していると考えられた。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はびまん性胃癌における粘液産生型癌細胞を、光顕的、電顕的並びに組織化学

的に検討して3型に分け、その分布と結合組織産生との関係を追究考察したものであるが、胃硬癌の特異的な性状と組織発生について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。